

江良歯科新聞

江良歯科医 990-0075
山形市落合町字二口203-1
発行責任者/江良謙次



東北地区歯科医学会での報告

多血小板フィブリン

本医院では2年前の平成23年9月から自己血（自分の血液）を使って抜歯の後や歯周病、インプラント治療などに対して多血小板フィブリン (Platelet-Rich Fibrin) を使った治療を行っております。

親知らずの治療に

今回は一月に出した第一号に報告した多血小板フィブリンについても一度お知らせします。この多血小板フィブリンは2006年にフランスの麻酔科医師であるジョセフ・ショークロウ先生たちが発表したのはじめです。もとは外科の手

傷の治りへの

こだわり

術に血管や組織をつなぐのに使用するフィブリン糊がこれです。



昨年十月二十日、二十一日に山形市で開催された第65回東北地区歯科医学会で発表を行いました。演題名は「埋伏智歯抜歯窩に多血小板フィブリンを使用した25例」です。多数のご意見をいただきました。その中には実際には使用してみたいが採血が大変とか、点滴ができないという手技的な問題が話されました。またその際にかかる費用的な問題が指摘されました。この発表の結論は抜歯後の歯槽粘膜の上皮化が通常より約3週間早いことを発表しました。

しかし手術の際に、ウシや他人のトロロン等の血液製剤の使用は、AIDSなどのこともありフランスでも、世界的にも法的規制ができ、使用が制限されるようになりました。そこで患者さん自身のフィブリンが見直されるようになったのです。フィブリンは血漿と血小板の顆粒を含み出血を止める重要な働きをしております。このようなフィブリンを応用してできたフィブリン接着剤は心臓血管外科などで使用されています。現在では傷口の治療促進や顔の皺伸ばしなど美容形成でも使われるようになりま

おねがい

本院では、待ち時間の短縮を図るため、予約制をとっています。予約してない方はなるべく、お電話で確認してからいらっしゃるようにしていただければ、待ち時間が少なくなります。ご協力お願いします。

その口内炎

大丈夫ですか？

口角炎や口内炎は出るいやなものですが、口角炎はなかなか治りにくく、口内炎は舌や唇にあると、わずらわしく食事がしにくいものです。その口内炎がウイルスによるものか、アフタ性のものか鑑別が大切です。難治性のももありますので、どうぞ御相談ください。

自家歯牙移植にも

した。この多血小板フィブリンの応用範囲はかなり広く、本医院では口腔外科処置に際しては必ず行っています。この方法を平成二十三年九月から開始し、今月まで126例に使用しました。東日本での症例数は一番だと思えます。適応症は親知らずの抜歯したところに填入します。こ

れで術後に起こる感染症などを防ぐことができます。歯根囊胞摘出術、歯周病の治療、自分の歯を、なくなった大臼歯のところに自分の歯を移植する自家歯牙移植術、インプラント手術に伴う骨増量術、上顎洞挙上術などに使っています。通常これらの処置後は顔が大きく腫れたりしますが、術後のこれらの症状を抑えるためにリンデロンというステロイド剤の点滴を併用して良好な結果を得ております。

親知らず治療の流れ

①はじめに採血をします



②引き続き点滴をつなぎます



③採血後遠心分離器に10分間かけます
試験管はすべて滅菌されたものを使用します



黄色部分がフィブリン
④滅菌されガーゼに取り出した多血小板フィブリンの塊です



⑤抜歯直前の口腔内の所見
親知らずが奥の方に少しだけ見えます



⑥PRFを抜歯した場所に入れて縫合します

